

あだたら

第422号
発行所 山形県六田町
あだたら山行部

●編集部連絡先
Fax 可 渡辺 正

新年あけましておめでとうございます

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと思います。

昨年、創立六十五周年記念である立山山行も最高の天気で行う事ができ、これもご協力をして頂いた皆様のお陰だと思っております。
本年は登山道整備に於いてすでにご存じの方もいらつしやるかも知れませんが、ヤマケイの日本山岳遺産整備事業団体として認定され、これも今まで継続的に活動をして頂いてきた皆様の成果かと思っております。
今年も積極的な会行事にご参加いただき、当会の活動を内外に多く発信していきたいと思っておりますので、何卒、宜しくお願い致します。

二〇二四(令和六)年元日
あだたら山の会会長 椎原

十二月二日(土)

立山山行、塩沢・黒森山

報告 佐藤

年末恒例になった塩沢黒森山行を予定通り十二月二日に実施しました。いつもの通り、鉄扇砂防公園に八時集合。今回は会員八名、会員外二名の参加となりました。車三台に分乗し、公園から国道三五四(安達太良山線)を塩沢方面に少し走

って右折、道なりに進み、二又集落を通り宮沢集落を過ぎると道は狭くなり、砂利道をゆっくり進むと行き止りになる。そこが登山口。登山口は広くなっていて、車四、五台は駐車できそう。登り口には黒森山の標識が設置されている。参加者全

員で記念撮影。山行開始前に菅野 さんから黒森山について説明。二〇一八年に三浦 さんと菅野善雄さんが森林組合の許可を得て登山道を整備したそうです。地元の人に古くから親しまれて来た山で二階山(にげえー山)と呼ばれていたそうです。さらに江戸時代の絵図には尖った山となだらかな山が描かれており、尖った山が黒森山と記

されている。現在の国土地理院の地図によると、なだらかな山が黒森山(標高七六〇m)となっている。(詳しくは二〇一九年一月と二〇二二年二月の会報をご覧ください)八時三十分登山開始。事前に椎原会長と青木さんが登山道の刈払いを行っていた。農地と雑木林の間を約二十分登っていくと、尾根の角(標高五三八m)に着く。そこを左折して下つて行くと左側にエビスサーキットが見えてくる。暫くはサーキットを左

に見ながら進んで行くと右側に灌漑用水路が見えてくる。水が流れていない時もあるようだが、今日はかなり水量がある。サーキット沿いから離れ、少し下つて沢に掛けられた丸木橋を渡る。ここまで約一時間十五分。少し登って行くと国有林との境界に出る。そこからは境界に沿って進んで行くと山頂が正面に見えてくる。尖った山と言われているだけあってかなりの急登。標高六八〇m付近で六



黒森山山頂、背景は安達太良山

名が山頂目指して直登(道はない)、残り四名が山頂を左から巻くコースに進む。左側に進むコースは落ち葉などで登山道が不明瞭になっているが赤布が付いており迷うことはない。船の舳先に似た大きな石が現れる。舟石と呼ばれ良い目印になる。もう少し登ると分岐に出る。黒森山の標識があり右折すると二本松藩と幕府の(信夫天領)境界線に右が並べてある(境壇、地元では『さげーだん』と呼ばれていたそうです)境界に沿って数分で山頂到着(十時二十二分、標高七三二m)。直登組と合流。山頂は西側に展望が開けており、なだらかな山(国土地理院の黒森山標高七六〇m)が目に見える。安達太良連峰、吾妻連峰の眺めも素晴らしい。安達太良山頂が雲に隠れていて少し残念。皆さんから頂いた干し柿、バナナ、お菓子などを食べながら暫し休憩。先程から聞こえていたサーキットの機音大きくなってきた。ちよつとうるさいが熊よけにはなるかな?この後、午後から忘年会が予定されているため、屋食をとらず下山開始十時五十分、全員そろって山頂から南に登山道を下つて行く。境界(境壇)に沿って下つて行くと道なりに進みやすいが、黒森山の標識のある地点から左折し東方向、舟石を見指す。後は来た道を戻

って行く。左手に笹森山の無線塔が近くに見える。サーキットの近くまで来ると、機音とタイヤのスリップ音が激しく聞こえてきた。ドリフト走行している車を眺めながら進み、尾根の角で小休止。ここも直進したくなるが、黒森山の標識から右折、南方向に下つて行くと登山口に到着。全員無事下山。登山口到着十二時六分、コースタイム三時間三十七分、休憩四十分、距離四、三kmでした。鉄扇砂防公園に戻って解散。忘年会へ。皆様お疲れ様でした。会員外で参加して頂いた浜尾さん、相馬から遠路参加して頂いた植松さんありがとうございました。



8時28分、黒森山登山道入口

十二月十日 (日)

花塚山

報告・菅野



花塚山山頂

昭和四十六年から始めた製作所、オイルショックで一時休んだ時もあったが、今年十一月二十日で高齢のため、閉鎖する事にした。その後工場の後片付けが大変、仕事やっていたより疲れる。十二月十日朝から良い天気、気晴らしとトレーニングで妻を誘い花塚山へ出掛ける。何年ぶりだろう、安達より木幡を通り、川俣へ。花塚の里登山口へ。駐車場には五、六台の車、皆入山していた。駐車場の放射線量が0.0七だった。十時三十分出発。放鹿神社前で入山届けを出し、本格



花塚山登山道途中の奇岩

的な登りとなる。整備された登山道、急登で休み休み登る。途中の巨岩や奇岩をカメラに収める。
富士見岩の看板、富士山に見える北限であるとの

十二月山行・黒森山下つて

十二月例会・忘年会

報告 事務局

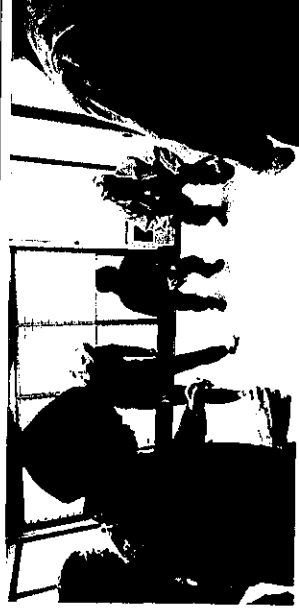


事。肉眼では無理と思う。山頂十二時十五分、何年か前、山頂西側が綺麗に刈り払われ、安達太良や吾妻山など見る事が出来たが、何年か後には、又見る事が出来なくなるだろう。小春日和、暖かな山頂 二人だけの昼食。福島から来たとい

う男性も一緒に昼食をし、男性は一足早く下山して行く。下山途中、花塚合へ。ここは私の新歓登山で祝って頂いた東屋がある。東屋も老朽化し使用禁止である。木の葉で滑らない様気を付け、二時三十分無事下山する。

13時53分、忘年会

久し振りの忘年会。例年の忘年会、十二月山行(新入会員歓迎会を兼ねて)を終えて、その日の夕方からその月の例会兼ねて忘年会やっていた事があった。青木荘なども利用させて頂いたこともあった。会報で見ると、集まってテーブル囲みでの忘年会は、四年前の、二〇一九年に太陽プラザ三階が最期かも知れない。
その後コロナ禍で人の集まりをしないようになって、忘年会は行われなくなった。今回は久し振りの忘年会、会場は郭内の勤労者研修センター和室だ。十三時からで、午前中は十二月山行で黒森山登山、参加した人達が、研修センターに移つての忘年会だった。黒森登山参加者は十名、忘年会は十五名、事務局は退院したばかりだったので、黒森山は不参加、忘年会だ



16時、皆でスクワット

け参加。
明るい内からの酒飲み、しかも研修センター和室、食べ物飲物は豊富、それなりに盛り上がった。隣の部屋では会員の高橋さんが、「スクワット」という筋トレ始めた、大部分の会員が参加、テーブル席はがら空きになった。夕方五時迄だったが、十二月始めだからまだ充分明るかった。こういう忘年会も悪くないと思った。
因みに会報に新型コロナが顔を出すのは会報三七八号二〇二〇年四月、三

一月七日 (日)

本松市スポーツ協会新春の集い

報告 編集部



17時32分、新春の集い

久し振りに市スポーツ協会の「新春の集い」が行われた。前回は会報で見ると二〇二〇年一月十二日、会場はウエディングパレス「かねすい」(会報三七六号)。その後新型コロナで集まりやらなくなった。今回は会員五名が参加した。会場は二本松御苑。

「密」避けようというポスターが掲載されている。

編集後記

四二二号

◆今年の冬、暖かい。「時々寒い日が来る」、という感じ。例年とは逆だ。安達太良山も白一色の「冬景色」になっていない。実は吾妻山も磐梯山も同じだ。新しい時代の始まりか？
◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。